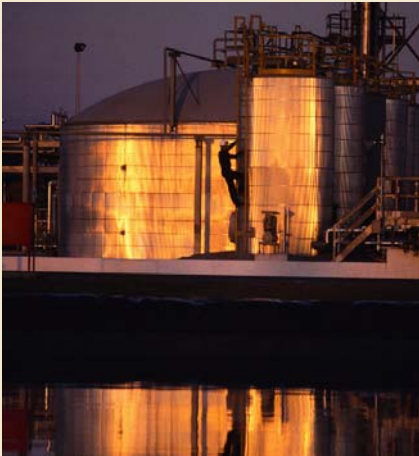


ストレージタンクの点検及びメンテナンス最適化のための 先進的な RBI ソフト



- ユニット単位のリスク監査により、補修やメンテナンス人員をリスクに集中させることができます。
- 暗黙の了解であったリスクの時間尺度を基に、安全な点検周期を構築することができます。
- リスク軽減対策が特徴付けられ、点検頻度目標に合致するように選択されます。
- 新しい API RP 580 に準拠した非常に使いやすい設備のリスク評価サポートツール

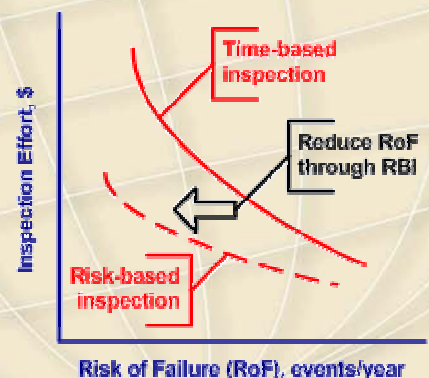
工業界では、点検やメンテナンス作業の対象及び計画を改善し、構築されたリスクベースメンテナンス (RBM) 手法を地上のストレージタンクの状態管理に取り入れることにより、利益を得られる機会がある事が認識されています。

RISKWISE for Tanks™

- “Item Properties and Materials (アイテムのプロパティと材質)” 画面でタンク情報を登録します。この情報は、内蔵されている RISKWISE™ ‘Import Wizard’ を介して、他のアプリケーションの資産情報と簡単に統合できます。
- “Inspection Methods (点検方法)” 画面で、全ての関連する点検やメンテナンスの履歴を捉え、これを利用して、リスク査定の前にタンクのダメージメカニズムを特定します。
- 各ストレージタンク内における現在進行中やその可能性のある全てのダメージメカニズムの場所を捉えます。
- 各タンクに対し、7つの不具合可能性要素及び9つの不具合結果要素を査定します。
- 各ダメージメカニズムに対し、3回先の定期修理時におけるリスク分析結果、及び安全な点検周期を定義する残存寿命インジケータの結果 (RLI) を表します。
- RBI 査定者にリスクアクションプランが提示され、そのアクションプランから、危険度の高いタンクに対する最適なリスク軽減オプションを評価することができます。

主な利点

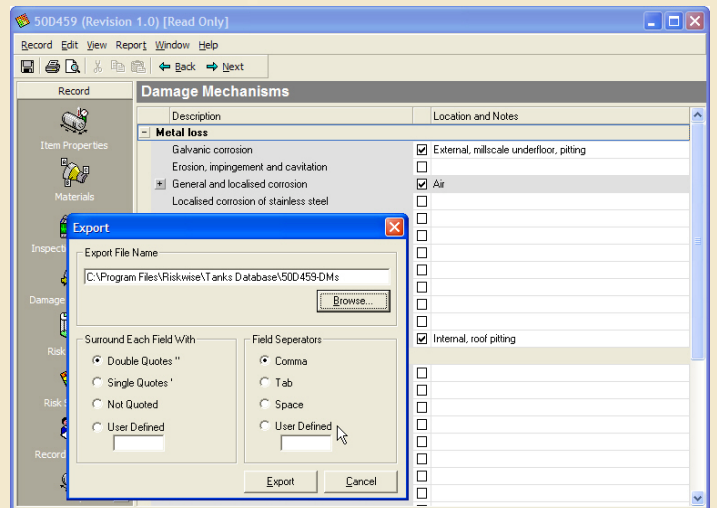
- 安全性の改善
- メンテナンス費用の最適化
- 点検周期の拡大が容易。
- アコースティック排気テスト結果を内蔵。



RISKWISE™ は TWI 社のソフトウェア製品です。

主な特徴

- ユーザーを満足させる使いやすくなりやすいソフト
- 監査チーム手法—プラント経験を活用。
- コンピュータ化された既存の点検管理システムとのインターフェース接続。
- 時間ベースのリスク監査モジュール—リスクと残存寿命による装置のランク付け。
- 正式な信頼性ルールを基にした点検頻度—残存寿命インジケータ (RLI) モジュール
- フォーカス/非フォーカスモジュール—最適な軽減対策を簡単に選択。
- 各種監査に対応可能なアウトプット—
- 保険会社やイギリス政府にも認められています。

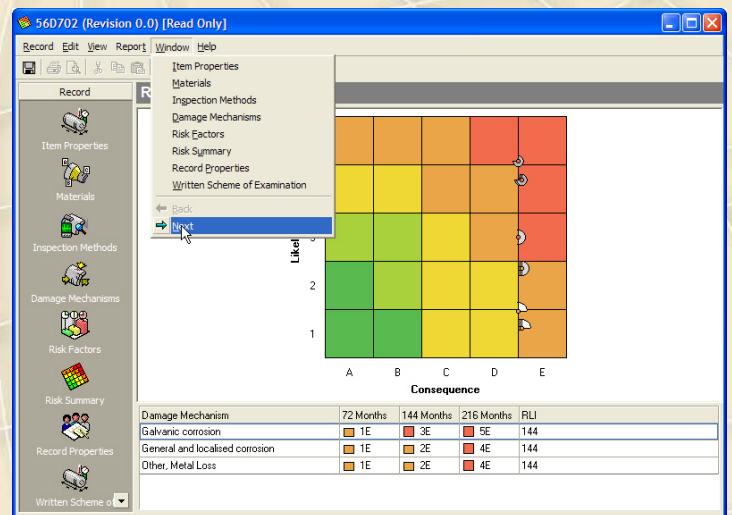


Damage mechanism assessment window for Tanks

実施方法

RISKWISE for Tanks™ はあらゆる種類の大気ストレージタンクに適用できます。一般的に採用されている方法は以下のとおりです。:

1. 対象プラントに応じたソフトのカスタマイズ及び必要情報の登録。
2. ソフトのインストール
3. ソフトの実践や機能性に関するトレーニング
4. 必要に応じたバックアップサポートの実施。



Risk summary and remaining life indicator for a tank

環境要件

- PC (スタンドアロンあるいはネットワーク接続されたもの)
- MS-Windows OS (NT 4.0 以上)

お問い合わせ

TWI 社製 RISKWISE™ 全シリーズ製品の最新情報は、riskwise@twi.co.uk へお問い合わせくださるか、弊社ホームページをご覧ください。



TWI Software
Granta Park, Great Abington,
Cambridge CB1 6AL, UK
Tel: + 44 (0) 1223 891162 Fax: 44 (0) 1223 892588
E-mail: riskwise@twi.co.uk
Website: www.twisoftware.com/riskwise